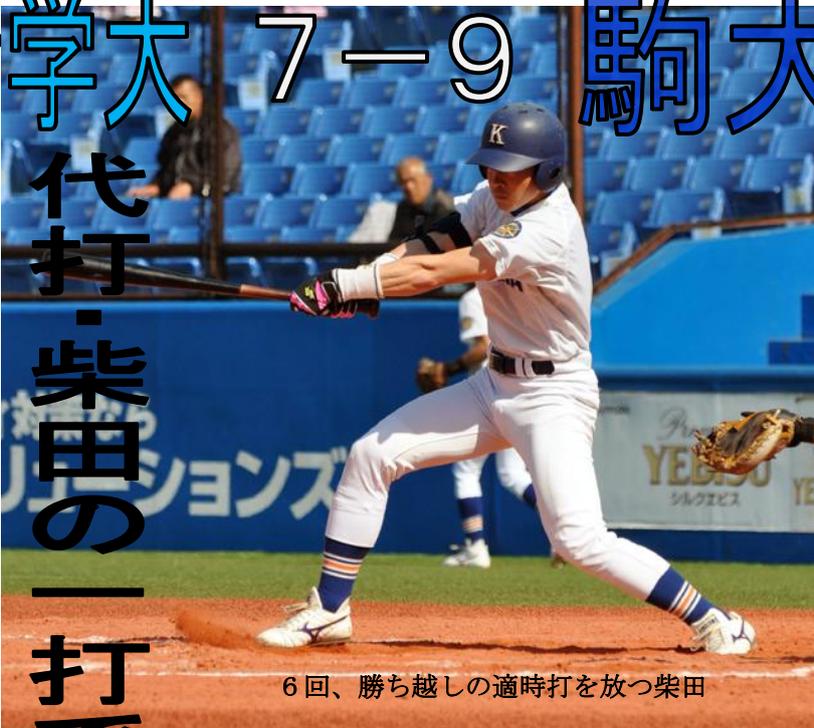


1回戦

11年春季リーグ
第2週・4月13日
1勝0敗

青学大 7-9 駒大



6回、勝ち越しの適時打を放つ柴田

【右・下】8回、貴重な適時三塁打を放った岡



初戦を制す！

代打・柴田の一打で

エースの不調に打線が奮起！

「勝った気がしない」
小椋正博監督が試合後そう口にした。今季早くも3勝目を挙げたが、指揮官に笑みはなかった。不満の矛先は点の取られ方とエースの投球内容にあった。初回に5点を先制した直後、先発・白崎勇は1死も取れないまま3失点。さらに、2死二、三塁で相手打者を中飛に打ち取ったかに見えたが、奥野智也(経4)が落球。5点の

先発は前戦で完封勝利を収めた白崎勇気(営4)。普段の調子とは程遠い状態で2回に5点差を追いつかれたが、代打・柴田圭哉(商4)の2点適時打などで勝ち越しに成功。課題が残る試合となったが、攻撃力を見せつけ初戦を制した。



7失点も、最後まで投げ抜いた白崎勇

それでも、打線が確実に好機をものにし、勝利へと導いた。初回以降は無安打に抑えられていたが、6回に2死二、三塁の場面で、代打・柴田が2球目を痛打。三遊間を破り2点適時打とした。「ストライクは全部振ろうと思っていた」と、積極

右腕は3回以降、被安打2に抑え完投したが、死四球4、7失点とエースらしからぬ投球。「球のキレがなく、力で投げざるを得ない感じだった」と、自らを責める一方で、女房役の戸柱恭孝(現3)は「エラーが一番だめ」と、四つの失策が投球に響いたことを呈した。

8回にも岡将吾(法4)の右越適時三塁打、友滝健弘(政4)の遊ゴロで、それぞれ1点を追加し、右腕を援護した。投手を含めた守備面で課題が残ったが、それをカバーできる攻撃力があることを実証した。主将は「いつも白崎(勇)に助けてもらっているから、今日は打線がという思いだった」と白星にホッとした様子。次戦は攻守がかみ合い、「完璧な勝利」といきたいところだ。

青学大	0	5	0	0	0	1	1	7
駒大	5	0	0	0	2	0	2	9

[駒大]	打安点
④小林	4 1 0
⑨中谷	2 0 0
PH柴田	1 1 2
98嘉数駿	0 0 0
⑥岡	4 2 1
⑤白崎浩	4 2 1
⑧奥野	3 1 1
H9友滝	1 0 1
DH山下	4 0 0
⑦江越	3 1 0
②戸柱	3 0 0
③増本	3 1 1
計	32 9 7

▽二塁打＝江越
▽三塁打＝岡

回	打安責
○白崎勇	9 40 8 4

友滝健弘 ②6

駒大でイチオシの選手を「自分」と答えた友滝健弘(政4)。昨年まで投手としてリーグ戦7試合に登板した右腕は昨年終了後、野手に転向した。高校時代に4番の経験があった打撃力は、3年経った今も健在。今春のオープン戦でも結果を残し、開幕戦で6番・DHとしてスタメン出場を果たした。この日快音は聞こえなかったが、青学大1回戦、2死一、三塁の場面で代打として登場。結果は遊ゴロだったが三塁走者が還り、初打点を記録した。続く2回戦では6番・右翼でスタメン、フル出場したが、またも初安打はお預けに。東洋大戦に向け、「(エースの)藤岡(貴裕)から打つ」と意気込んだ。初安打をドラフト1位候補投手から放つことができるか。友滝のバットが火を噴くことに期待したい。



(榎島 知佳)

写真：田上 慧、堀江あゆみ、山田遼太郎、宮崎 桂、文：野木聡介